専門分野

授業科目名	看護学概論Ⅰ			担当教員	小林　幸子
開講時期	1年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1単位／30時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術をもとに、基礎看護技術の習得のための実践的な授業を行う。

目的	看護の歴史的変遷や理論、看護活動の場について学ぶ。保健医療チームの一員として、人間の生活と健康を関連させ、看護の役割り、機能と活動について学ぶ。
目標	1. 看護の概念や歴史的変遷や看護論を通して理解できる 2. 看護の対象を生活者として健康や環境と関連づけ総合的に理解する
評価方法	筆記試験（100%）

回	日時	授業内容	内容
1	/	看護とは	①看護の本質 ②看護の役割と機能
2	/	看護とは	③看護の継続性と情報共有
3	/	看護の対象の理解	①人間の「こころ」と「からだ」
4	/	看護の対象の理解	②生涯発達しつづける存在としての人間 ③人間の「暮らし」の理解
5	/	国民の健康状態と生活	①健康のとらえ方
6	/	国民の健康状態と生活	②国民の健康状態 ③国民のライフサイクル
7	/	看護の提供者	①職業としての看護 ②看護職の資格・養成制度・就業状況
8	/	看護の提供者	③看護職者の継続教育とキャリア開発 ④看護職の養成制度の課題
9	/	看護における倫理	①現代社会と倫理 ②医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理
10	/	看護における倫理	③看護実践における倫理問題への取り組み
11	/	看護の提供のしくみ	①サービスとしての看護 ②看護サービス提供の場
12	/	看護の提供のしくみ	③看護をめぐる制度と政策 ④看護サービスの管理　⑤医療安全と医療の質保証
13	/	広がる看護の活動領域	①国際化と看護
14	/	広がる看護の活動領域	①災害時における看護
15	/	試験	筆記試験

履修者へのコメント:	
使用テキスト:	茂野香おる他「系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[1]　看護学概論」（医学書院） 助川尚子訳「ナイティンゲール看護覚え書き書　決定版」（医学書院）
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。

専門分野

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅰ (コミュニケーションと環境)			担当教員	椎葉　惠理子 ・ 吉江　恭子
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／30 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術をもとに、基礎看護技術の習得のための実践的な授業を行う。

目的	援助の共通基本技術の意義と方法を学び、関連する看護技術を科学的根拠に基づいて習得する。
目標	1. あらゆる場面において共通するコミュニケーション技術について理解し、活用できる。 2. 看護の基本的構成要素である環境の調整に必要な知識を習得し、活用できる。
評価方法	1.筆記試験(90%)　2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	
1	/	コミュニケーション	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程	講義
2	/	コミュニケーション	関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義
3	/	コミュニケーション	効果的なコミュニケーションの技法　アサーティブネス	講義
4	/	コミュニケーション	コミュニケーション障害への対応	講義
5	/	感染防止の技術	感染防止その予防の基礎知識 標準予防策の基礎知識・手指衛生	講義/演習
6	/	環境調整技術	環境の概念　環境構成要素と環境調整	講義
7	/	環境調整技術	病床環境の調整　リネン類の扱い方、リネン交換の基本	演習
8	/	環境調整技術	ベッドメーキング	演習
9	/			演習
10	/			演習
11	/		臥床患者のリネン交換　病床環境調整	演習
12	/			演習
13	/		ベッドメーキング技術チェック	演習
14	/	学習支援	看護における学習支援　健康生活を支える学習支援 健康状態の変化に伴う学習支援　学習支援の実際	講義
15	/	試験	筆記試験	

履修者へのコメント:	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。
使用テキスト:	有田清子他「系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ」（医学書院） 有田清子他「系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ」（医学書院） 竹尾惠子監修「看護技術プラクティス第 4 版」（学研メディカル秀潤社）
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。

専門分野

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅲ （食事と排泄）			担当教員	髙橋　真希
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／30 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術をもとに、基礎看護技術の習得のための実践的な授業を行う。

目的	援助の共通基本技術の意義と方法を学び、関連する看護技術を科学的根拠に基づいて習得する。
目標	1. 食事援助の技術について、理解し、活用できる。 2. 排泄の援助技術につて理解し、活用できる。
評価方法	1.筆記試験（90%）　2.授業への参加態度・状況（10%）

回	日時	授業内容	内容	
1	/	食事援助技術	食事援助の基礎知識 人間にとっての食事の意義　栄養状態のアセスメント	講義
2	/	食事援助技術	医療施設の食事の特徴と援助の方法	講義
3	/	食事援助技術	食事摂取の介助	講義
4	/	食事援助技術	摂食・嚥下訓練　口腔ケア	講義
5	/	食事援助技術	非経口的栄養摂取の援助―経管栄養法、中心静脈栄養法 食事介助の具体的援助　口腔ケアの実際	演習
6	/	排泄援助技術	自然排尿および自然排便の基礎知識	講義
7	/	排泄援助技術	自然排尿および自然排便の介助の実際	講義
8	/	排泄援助技術	導尿 一時的導尿・持続的導尿	講義
9	/	排泄援助技術	排便を促す援助 浣腸(グリセリン浣腸)・摘便・ストーマケア	講義
10	/	排泄援助技術	トイレ・ポータブルトイレ・床上排泄(便器・尿器介助)	演習
11	/		導尿・排便を促す援助	演習
12	/		おむつ交換・陰部洗浄	演習
13	/			演習
14	/			演習
15	/	試験	筆記試験	

履修者へのコメント:	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。 自己学習時間を使い、実技テストに備えること。
使用テキスト:	有田清子他「系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ」（医学書院） 有田清子他「系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ」（医学書院） 竹尾惠子監修「看護技術プラクティス第 4 版」（学研メディカル秀潤社）
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。

専門分野

授業科目名	臨床看護学総論			担当教員	椎葉　惠理子
開講時期	1年次後期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／30 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術をもとに、臨床看護学の習得のための実践的な授業を行う。

目的	健康上のニーズに着目し、健康状態の経過に基づく看護や症状に対する看護の基本原則について学ぶ。
目標	基礎的知識や技術が実践でどのように統合されるのか対象のライフサイクル、生活の場、健康状態、症状、治療と関連させて理解する。
評価方法	筆記試験（100%）

回	日時	授業内容	内容
1	/	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ
2	/	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ
3	/	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ
4	/	健康状態の経過に基づく看護	健康状態と看護 健康の維持・増進を目指す看護
5	/	健康状態の経過に基づく看護	急性期における看護 慢性期における看護
6	/	健康状態の経過に基づく看護	リハビリテーション期における看護 終末期における看護
7	/	主要な症状を示す対象者への看護	呼吸に関連する症状を示す対象者への看護
8	/	主要な症状を示す対象者への看護	循環に関連する症状を示す対象者への看護
9	/	主要な症状を示す対象者への看護	栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 排泄に関連する症状を示す対象者への看護
10	/	主要な症状を示す対象者への看護	活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護
11	/	主要な症状を示す対象者への看護	コーピングに関連する症状を示す対象者への看護 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 安楽に関連する症状を示す対象者への看護
12	/	治療・処置を受ける対象者への看護	輸液療法を受ける対象者への看護 化学療法を受ける対象者への看護 放射線療法を受ける対象者への看護
13	/	治療・処置を受ける対象者への看護	手術療法を受ける対象者への看護 集中治療を受ける対象者への看護
14	/	治療・処置を受ける対象者への看護	創傷処置／創傷ケアを受ける対象者への看護 身体侵襲を伴う検査・治療受ける対象者への看護
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		香春知永他「系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[4]　臨床看護総論」（医学書院） 北里大学病院看護部編「ナースポケットマニュアル」（医学書院）	
参考文献:		参考となる文献は、授業内で適宜提示する。	

専門分野

授業科目名	シミュレーション技術Ⅰ			担当教員	椎葉　惠理子
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／15 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術をもとに、シミュレーション技術の習得のための実践的な授業を行う。

目的	基礎看護学実習Ⅰ－1の実習に向けて、今まで学んだ科目の内容を確認し、活用できるようにする。
目標	1. 療養者を取り巻く環境・看護師の役割や業務内容を理解する。 2. シミュレーションを通して学習したコミュニケーション技術を利用できる。
評価方法	1.筆記試験（90%）　2.授業への参加態度・状況（10%）

回	日時	授業内容	内容
1	/	ガイダンス	基礎看護学実習Ⅰの内容を説明し、踏まえ、看護学概論で学んだ内容を再確認する。
2	/	シミュレーション学習	ロールプレイ学習①
3	/	シミュレーション学習	ロールプレイ学習②
4	/	シミュレーション学習	ロールプレイ学習③
5	/	シミュレーション学習	ロールプレイ学習④
6	/	グループワーク	発表に向けての振り返り、カンファレンス。
7	/	全体のまとめ	グループ毎に発表し、基礎看護学実習における自身の課題を明確にする。
8	/	試験	筆記試験

履修者へのコメント:	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。
使用テキスト:	有田清子他「系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ」（医学書院） 有田清子他「系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ」（医学書院） 竹尾惠子監修「看護技術プラクティス第 4 版」（学研メディカル秀潤社）
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。

専門分野

授業科目名	地域・在宅看護概論Ⅰ			担当教員	椎葉　惠理子
開講時期	1 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院や訪問看護ステーション等での実務経験から得た知識・技術をもとに、地域・在宅看護を理解するための実践的な授業を行う。

目的	地域で療養、又は、障害を持ちながら生活をする人々とその家族の特徴を理解し、地域における看護活動のあり方と役割、機能について学び、また、保健・医療・福祉と連携した看護活動について学ぶ。
目標	1. 地域における看護の機能と役割について理解する 2. 在宅ケアにおけるチームケアの重要性と看護職の役割を理解する。 3. 在宅看護に関わる法律・制度を理解する。 4. 在宅ケア、在宅看護、多職種との連携の重要性を理解する。
評価方法	筆記試験（100%）

回	日時	授業内容	内容
1	/	地域のなかでの暮らしと健康・看護	働くこと・学ぶことと暮らし 高齢者のいる暮らし 出産・育児と暮らし
2	/	人々の暮らしと地域・在宅看護	人々の暮らしの理解 地域・在宅看護の役割
3	/	暮らしの基盤としての地域の理解	暮らしと地域 暮らしと地域を理解するための考え方 地域包括ケアシステムと地域共生社会
4	/	地域・在宅看護の対象	地域・在宅看護の対象者 家族の理解
5	/	地域・在宅看護の対象	地域に暮らす対象者の理解と看護
6	/	地域における暮らしを支える看護	暮らしを支える地域・在宅看護 暮らしの環境を整える看護 広がる看護の対象と提供方法
7	/	地域における暮らしを支える看護	地域における家族への看護 地域におけるライフステージに応じた看護 地域での暮らしにおけるリスクの理解 地域での暮らしにおける災害対策
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:	河原加代子他「系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論[1]　地域・在宅看護の基盤」（医学書院）		
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	成人看護学概論			担当教員	椎葉　惠理子
開講時期	1 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術をもとに、成人看護について実践的な授業を行う。

目的	成人期にある対象の生活と健康に関する知識を学び、多様な健康状態や健康問題に対応するための考え方や方法を学ぶ。
目標	1. その人にとって最適な健康を促進、維持、増進するための看護援助を理解し活用できる。 2. 健康状態健康問題に対する看護の実際を健康レベルごとに理解し活用できる。
評価方法	筆記試験（100%）

回	日時	授業内容	内容
1	/	成人と生活	対象の理解　－大人になること、大人であること 対照の生活　－働いて生活を営むこと
2	/	生活と健康	成人を取り巻く環境と生活からみた健康 生活と健康をまもりはぐくむシステム
3	/	成人への看護アプローチの基本	生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助 症状マネジメント　健康問題をもつ大人と看護師の人間関係
4	/	成人への看護アプローチの基本	人々の集団における調和や変化を促すアプローチ チームアプローチ　看護におけるマネジメント
5	/	成人への看護アプローチの基本	看護実践における倫理的判断 意思決定支援　家族支援
6	/	ヘルスプロモーションと看護	ヘルスプロモーションと看護 ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動
7	/	健康をおびやかす要因と看護	健康バランスの構成要素　影響を及ぼす要因 生活行動がもたらす健康問題とその予防
8	/	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	健康の急激な破綻 急性期にある人の看護
9	/	慢性病とともに生きる人を支える看護	慢性病とともに生きる人を理解する 慢性病とともに生きる人を支える
10	/	障害がある人の生活とリハビリテーション	障害がある人とリハビリテーション 障害がある人とその生活を支援する看護
11	/	人生の最期のときを支える看護	人生の最期のときにおける医療の現状 人生の最期のときを過ごしている人の理解　支える看護
12	/	さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援	移行支援の基礎知識 継続的な移行を支える支援の実際
13	/	新たな治療法、先端医療と看護	新たな治療法・医療処置の開発・普及
14	/	新たな治療法、先端医療と看護	新たな治療法や医療処置を受ける患者・家族の看護
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		小松浩子他「系統看護学講座　専門分野　成人看護学[1]　成人看護学総論」（医学書院）	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	小児看護学方法論Ⅲ			担当教員	髙橋　真希
開講時期	2年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術をもとに、小児看護について実践的な授業を行う。

目的	健康障害を持つ子どもと家族に対して、対象に応じた看護の役割を学び、科学的根拠に基づいた基礎的な看護を学ぶ。
目標	1. おもな小児疾患、症状に対する看護について理解できる。 2. 看護過程の展開をとおして、子どもと家族の看護について理解できる。 3. プレパレーションの意義と方法について理解できる
評価方法	1.筆記試験（90%）　2.授業への参加態度・状況（10%）

回	日時	授業内容	内容
1	/	悪性新生物と看護	看護総論 造血器腫瘍　脳腫瘍　他　疾患をもった子どもの看護
2	/	腎・泌尿器疾患および生殖器疾患と看護	先天性腎・尿路異常　急性・慢性腎臓病　他 疾患をもった子どもの看護
3	/	神経疾患と看護	神経系の先天異常　痙攣性疾患　他 疾患をもった子どもの看護
4	/	運動器疾患と看護	先天性股関節脱臼　脊柱側弯症　骨折　他 疾患をもった子どもの看護
5	/	皮膚疾患と看護	母斑　魚鱗癬　湿疹　皮膚真菌症　他 疾患をもった子どもの看護
6	/	眼疾患と看護	結膜炎　先天性眼瞼下垂　斜視　他 疾患をもった子どもの看護
7	/	耳鼻咽喉疾患と看護	先天性難聴　外耳・中耳の疾患 咽頭の疾患　喉頭の疾患　他　疾患をもった子どもの看護
8	/	精神疾患と看護	発達障害　神経症圏の疾患　統合失調症　他 疾患をもった子どもの看護
9	/	事故・外傷と看護	頭部外傷　誤飲・誤嚥　溺水　熱傷　他 疾患をもった子どもの看護
10	/	事例による看護過程の展開	≪1型糖尿病の子どものケア≫
11	/	事例による看護過程の展開	≪1型糖尿病の子どものケア≫
12	/	演習	プレパレーション作成
13	/	演習	プレパレーション作成
14	/	演習	プレパレーション発表
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		奈良間美保編「系統看護学講座　専門分野　小児看護学[2]　小児看護学各論」（医学書院）	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	母性看護学方法論Ⅲ			担当教員	吉江　恭子
開講時期	2 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師・助産師として総合病院産科等での実務経験から得た知識・技術をもとに、母性看護について実践的な授業を行う。

目的	褥婦の正常な経過や生理的変化について学ぶ正常に経過するための援助、異常児の援助について科学的な根拠基づいた基礎的な看護を学ぶ。
目標	1. 産褥時の女性への看護を理解できる。 2. 妊娠・分娩・新生児・褥婦の異常を知り、対象に応じた看護がわかる。
評価方法	1.筆記試験（90%）　2.授業への参加態度・状況（10%）

回	日時	授業内容	内容
1	/	新生児期における看護	新生児の生理 ①新生児とは　②新生児の機能
2	/	新生児期における看護	新生児のアセスメント ①新生児の診断
3	/	新生児期における看護	新生児のアセスメント ②新生児の健康状態のアセスメント
4	/	新生児期における看護	新生児の看護 ①出生直後の看護　②出生後から退院までの看護
5	/	新生児期における看護	③生後1カ月健診に向けた退院時の看護
6	/	産褥期における看護	産褥経過 ①産褥期の身体的変化　②産褥期の心理・社会的変化 褥婦のアセスメント
7	/	産褥期における看護	褥婦と家族の看護 施設退院後の看護
8	/	新生児の異常と看護	新生児仮死　分娩外傷　低出生体重児
9	/	新生児の異常と看護	高ビリルビン血症 新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症
10	/	産褥の異常と看護	子宮復古不全　産褥期の発熱 産褥血栓症　精神障害　異常のある褥婦の看護
11	/	産褥の異常と看護	育児に困難さをかかえる母親への看護 児をなくした褥婦・家族の看護
12	/	産褥の異常と看護	メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援
13	/	演習　沐浴	沐浴の実際
14	/	演習　沐浴	沐浴の実際
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		森恵美編「系統看護学講座　専門分野　母性看護学[2]　母性看護学各論」（医学書院） 太田操「ウエルネス看護診断に基づく母性看護過程」（医歯薬出版株式会社）	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	